

第13分科会「里山と竹」

里山の活用と竹林セラピー

日時：第1回は平成19年7月28日（土曜日）午前10時から午後3時まで

場所：①四街道市中台字長堀652番1の白い竹園
②山武郡芝山町大里1400番地のオオゴンモウソウの竹庭

参加者：94名

趣旨

竹林セラピーとは、竹林を健康増進や健康回復に役立てるものです。いま多くのストレスがありその解消が必要です。その解消に竹林がもつ本来の機能を役立てたいのです。

内容

竹林セラピーとは、竹林を健康増進や健康回復に役立てるものです。いま多くのストレスがあり、その解消が必要であり、竹林がもつ本来の機能を役立てたいのです。

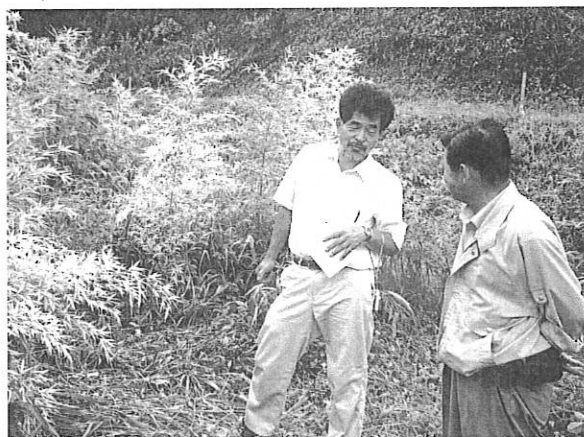
- 1 かつて、竹は日本人の「なりわい」に深く係わってきました。竹は人々の生業そのものでした。
しかし、竹をとりまく環境は劇的に変化し・今や竹は厄介もの扱いになっています。
- 2 人々の生業が変われば、それにあった竹の活用があるはずですが、竹は、人々のニーズに応えることができません。
- 3 幸い、日本人には、育成された美しい竹林や、珍しい竹がたくさんあります。しかし、これらの竹林は十分活用されていません。そこで、竹研究会は管理された美しい竹林を多くの人に開放するとともに、里山の放竹林を整備して珍しい竹や名竹を里山に移植することなどを実践してきました。
- 4 竹の美しさを再認識していただくために、今回は白い竹園（アルビノの竹園）とオウゴンモウソウの竹林（竹庭）見学を実施しました。また、竹林セラピーの有効性について、現地で説明をおこなうことにしました。

（現状）

森林セラピーは、最近新聞やテレビで取り上げられるようになりましたが、竹林セラピーは、まだ一般的には認知されたとはいえません。

（目的）

竹林の美しさや清々視差は、日本人であれば一度や二度は経験したことがあります。



そして竹林を健康回復や健康増進等に活用していただきたいと思うからです。美しい竹林が健康面で、良いことは、誰もが疑う余地はないのです。

しかし、竹林はあまりにも人々の身近にあったことから、取り立てて「セラピー」等と言いたる必要がなかったのです。竹林研究会は、時代にあった新しい生業として、竹林セラピーを考え実践してきました。今回の目的とするところは、多くの方に竹の美しさと良さを再認識していただきたいと考えたからです。

そして竹林を健康回復や健康増進等に活用していただきたいと思うからです。

まとめ

NPO 法人竹研究会は、いまの時代にあった竹林の活用を考えてきましたが、そのひとつが、里山の活用と竹林セラピーです。

